

令和2年度 いなばメルヘン米コシヒカリ栽培こよみ



田植えは5月15日を中心に行いましょう
(中山間地は除く)

目標	1等米比率90% 食味値80以上 玄米タンパク含有量7.0以下
いなば農業技術者協議会	

この栽培暦はJA米の生産基準を兼ねています

理想的な苗

草丈 12~13cm
第1葉 3.0~3.5cm
葉数 2.5枚

適正な植付深度

1cm植え 2葉
3cm植え 2葉
5cm植え 2葉

茎数 25本/株

無効分けつ

有効分けつ

【出穂期】 ほ場の40~50%の株で出穂した頃

【穂揃期】 ほ場の80~90%の株で出穂した頃 (出穂期の2~3日後)

最重点技術対策

- ・土づくりの徹底
- ・初期分けつの確保
- ・穂揃期の葉色確保
- ・適期病害虫防除の徹底
- ・出穂後の適正な水管理

4月	5月	6月	7月	8月	9月
育苗期	田植期	活着期	有効分けつ期	無効分けつ期	幼穂形成期~穂ばらみ期
	登熟期				

水管理

水深スケールの有効活用

やや深水 活着後 浅水管理

溝掘り 中干し

中干し後~幼穂形成期頃 間断かん水

幼穂形成期~出穂期 飽水管理 (手溝の水が切れぬ程度)

出穂後20日間 湛水管理 (こまめに水の入替)

収穫5~7日前まで 間断かん水 (落水を急がない)

施肥

一発 土づくり 秋に散布が行えなかったほ場

側条 苦土 重焼燐30 中山間地等

全層 LP555 1号 基肥555

・エスアイ加里特号 かり投げくん 中間追肥

追肥3号 1回目 追肥3号 2回目

※1 出穂7日前の葉色が薄い場合(4.0未満)に追加施用する

肥料の施用量については 座談会資料等を参照する

防除

農薬使用成分数 13成分以内

箱粒施薬 (は種時(覆土前)~移植当日)

本田除草剤散布 農薬注文書参照

畦畔等の除草 草刈運動期間 7月1日~10日

基本防除 (粒剤・豆つぶ剤) 出穂5日前※2 (粉剤・液剤) 1回目: 穂揃期 2回目: 傾穂期

※2 カメムシの多発が予想される場合は【粒剤・豆つぶ剤】の使用を避ける

栽培技術のポイント

〇土づくり

土づくり資材や堆肥の施用を継続的に行う

資材名	施用量(kg/10a)
鉄入り元気	80kg以上
ハイタフ特号(粒)	100kg以上
ケイカル(粒)	100kg以上
けい酸加里	40kg以上

中間追肥省力型

カリ入元気	80kg以上
有機加里入シリカロマン	80kg以上

〇溝掘り・中干し

- ・溝掘りは6月上旬までに行い、随時手直しを行う(10~15条に1本程度)
- ・中干しは田植後1ヶ月頃を目安に開始する

〇基本防除

斑点米の発生を防ぐため、適期に2回防除を徹底する

防除時期	薬剤名	散布量(10aあたり)	収穫前日数
1回目 穂揃期	粉剤	キラップ粉剤DL 4kg	14日前まで
	液剤	キラップフロアブル 75ml 水150L	14日前まで
2回目 傾穂期	粉剤	スタークル粉剤DL 3kg	7日前まで
	液剤	スタークル液剤10 150ml 水150L	7日前まで

防除間隔は7日間を目安とし、10日間以上あけない!!

【粒剤体系・豆つぶ剤体系】...出穂5日前頃

- ・『キラップ粒剤』: 3kg/10a (収穫14日前まで)
- ・『スタークル豆つぶ』: 250g/10a (収穫7日前まで)

水深5cm程度の湛水状態で散布。散布後7日間は落水しない

〇田植え

- ・栽植株数70株/坪
- ・植付本数3~4本/株
- ・植付深さ3cm
- ・肥料の設定を確認する

〇除草剤散布

- ・散布後7日間は止水状態(落水やかけ流しをしない)
- ・ジャンボ剤は5cm以上の深水状態で散布(藻の多発地では使用を避ける)

〇中間追肥

- ・稲体の体質強化と倒伏軽減のため施用する(散布時期6月20日~25日頃)

資材名	施用量(10aあたり)
エスアイ加里特号	10kg以上
エスアイ加里かり投げくん	4kg以上

〇適正な穂肥

- ・1回目: 幼穂形成期から7日後頃(幼穂15mm頃)
- ・2回目: 1回目から7日後

出穂7日前に葉色が薄い場合(4.0未満)は追加穂肥を施用

※出穂以降、過剰施用で玄米タンパクが高くなるので注意

育苗	4月					5月				
	14日	21日	22日	23日	25日	28日	1日	8日	15日	
	浸種(7~10日間程度) ・浸種水温は10~15℃を7確保 ・浸種の積算温度100℃以上を確保	タフブロック 種子消毒	催芽	陰干し	は種	搬出	育苗日数 (は種日も含めて20日間以内) ※ハウスの温度が25℃以下となるよう換気を徹底する 夜間も換気を行う		田植え	